

グループホーム けんとか(認知症対応型共同生活介護事業所)

1. 評価結果概要表

作成日 20 年 9 月 5 日

【評価実施概要】

事業所番号	1850180025
法人名	医療法人 穂仁会
事業所名	グループホーム けんとか
所在地	福井県福井市乾徳4丁目4-18 (電話) 0776-30-5100

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3-22		
訪問調査日	平成20年7月18日	評価確定日	平成20年9月5日

【情報提供票より】 (20 年 6 月 10 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 12 年 5 月 11 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	34 人	常勤 24 人、非常勤 10 人、常勤換算 16.9 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	10,410 + 実費 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4)利用者の概要 (6 月 10 日 現在)

利用者数	27 名	男性 1 名	女性 26 名
要介護1	5	要介護2	15
要介護3	6	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 85 歳	最低 72 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大滝病院、大滝外科胃腸科病院、早川歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人穂仁会が運営する大滝病院を母体として平成12年にグループホームけんとかA棟が開所し、その後、毎年1棟ずつ増設された計3ユニットのホームである。同法人の医療機関や介護保険事業所が複数隣接し、医療と介護の連携により入居者や家族の安心と信頼を得ている。法人内に各種委員会や勉強会が組織され、サービスの質の向上や職員の資質向上に法人一体となって取り組んでいる。また、従業者のための保育所や病児の受け入れも可能な福利厚生が整っており、ホームの職員定着も良く、その結果、入居者との馴染みの関係が継続されている。ホームは平屋建てで3ユニットが廊下でつながり、交流やりハビリにも活かされており、各所に良質の美術品や椅子が置かれ、安らぎがもてる空間となっている。職員は、一人ひとりの思いを尊重した入居者本位の支援と地域と支え合う関係づくりに積極的に取り組んでおり、家族の厚い信頼と地域との連携が深められている。入居者が得意分野を活かして楽しみや役割をもってその人らしく過ごしている状況とそれを支援する職員が専門職として質の高いサービスの提供に努めていることがホーム内の見学やヒヤリングからもうかがえた。管理者は、地域における認知症のサポートセンターとしての機能も提供できるように尽力していきたいという意欲を示しており、今後の取り組みが期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で改善課題として上げられた運営推進会議への幅広い分野からの参加、終末期への対応、鍵をかけたケアの実践について、職員は真摯に受け止め課題を共有して改善への取り組みを行っている。具体的には、終末期についての勉強会を実施したり、鍵をかけたケアに関して家族アンケートや運営推進会議での意見交換を通じて改善に向けた段階的な取り組みがみられる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に当たって、管理者は毎朝の申し送り後の時間に2、3項目ずつ職員に問いかけて意見を聞き、意識付けを行いながら評価に取り組んでいる。職員も自己評価での気づきや見直しがサービスの質の向上に必要なこととして評価の意義を理解している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は奇数月の第4土曜日に定例として開催されている。協議では評価に関する事項や地域連携についても意見が活発に出され、情報をもとに町内会の草取りに参加するなど運営に反映させている。会議録は職員に回覧して共有化を図り、家族には書面で報告しながら、当事者として順次運営推進会議に参加してもらう仕組みをとっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族への報告は面会時や電話にて個別に行うほか、3か月ごとにホームでの暮らしぶりや行事等の表情豊かな写真を中心に「にこやか通信」が送付されている。意見箱の設置や苦情相談窓口の案内を掲示して、家族等の意見を汲み取る仕組みがある。苦情とその対応については書面にて報告され、職員間で共有されている。今後、さらに入居者ごとの細かい状況を記載した個別の便りも事業所便りと合わせて送ったり、事業所のサービスの取り組み、職員の紹介も紙面上で行うなど、より家族の安心・信頼と親しみを得られる取り組みも期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入して、住民と共に祭りや運動会等のイベントに参加したり、交通安全マスコット作り等の地区活動に積極的に参加している。日常的には買物や散歩等で外出して、ホームで採れた野菜や花を住民に分けたり、公園等の草取りを一緒に行っている。また、近所のアパート火災時にはホームとして炊き出しを行い、住民からも感謝されている。管理者はホームの機能を活かして地域の認知症高齢者の相談を受けたり、サポートセンターとしての機能を今後の取り組みとして計画している。

2. 評価結果（詳細）

■は、重点項目。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営 1 理念の共有			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で尊厳を持ってその人らしく楽しくゆっくり暮らしていく」という理念を職員間で作成して、玄関や各ユニットのフロア等要所に目に付くように掲示している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝職員は理念を唱和・確認して業務に就いている。特にケア中の禁句や入居者への言葉遣い等、入居者の尊厳の保持に向けて職員相互で取り組んでいる。		
		2 地域との支えあい			
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、祭りや運動会等の地区活動に住民と共に参加している。法話をしてくれる方や生け花ボランティア等を受け入れるだけでなく、「できることは積極的に行っていく」という方針で新たに神社や公園の草取りにも参加するなど地域と関わる機会を広げている。		
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の改善課題を職員間で真摯に受け止め、改善に向けて実践している。今回の自己評価に当たって、管理者は毎日2、3項目ずつ職員に問いかけて意見を聞き、意識付けを行いながら評価に取り組んでいる。職員も「皆が納得しながら一歩踏み出していかなければ良いケアはできない」と評価の意義を理解している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は奇数月の第4土曜日に定例的に開催され、事業報告や運営上の具体的な課題について地域代表や地域包括支援センター、介護相談員、家族代表らとの意見交換が活発に行われている。会議録は職員に回覧され、全家族にも書面で報告されている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者との日常的な連携はないが、地域包括支援センターや介護相談員と緊密に連携をとって、その都度課題やサービスの質の向上について話し合いが行われている。		
		4 理念を実践するための体制			
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は面会時や電話にて行うほか、3か月ごとに日頃の暮らしぶりや行事での表情等の写真も掲載した「にこやか通信」を送付している。また、預かり金についても出納帳を付け、家族に定期的に報告している。		さらに入居者ごとの細かい状況を記載した個別の便りも事業所便りと合わせて送ったり、事業所のサービスの取り組み、職員の紹介も紙面上で行うなど、より家族の安心・信頼と親しみを得られる取り組みも期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情相談窓口を設置しているが、意見箱が活用されたケースはほとんどなく、直接口頭で相談されることが多い。また、運営推進会議には家族に順次出席してもらい、運営に参加してもらおう仕組みがとられている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は最小限にとどめる配慮がなされている。また、法人内に保育所や病児預かり等子育て支援が整備されており、職員の離職を防ぐ努力もなされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で各種勉強会等の内部研修が毎月実施されている。また、認知症介護実務者研修にも毎年1名ずつ職員が参加し、その他の外部研修の受講も奨励され、伝達講習により職員間で共有されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井市介護サービス事業者連絡会や福井県グループホーム連絡協議会の役員にもなっており、情報交換や勉強会に参加している。また、実務者研修の実習先にもなっており、現場従事者同士の情報交換やサービスの質についても話されている。		
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	無理強いせず、馴染みながらの入居開始に努めている。具体的にはフロアで職員と一緒に過ごしたり、職員が間に入って入居者同士が共感し合う機会を作って穏かに利用開始できるように工夫している。時には家族と連携して、面会や外出を重ねて徐々に馴染んでもらう取り組みもなされている。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個別の寄り添いを重視した関わりをもつことで本人の好みや得意分野を把握し、不安や訴えにも早期に対応できる関係を築いている。また、入居者の得意な縫い物や野菜作りで教えられる場面もあることも職員のヒヤリングから聞かれた。		
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人の思いに副った暮らしが支援されている。思いの把握が困難な場合は、家族からやアセスメントによる情報を基にケースカンファレンスをして、入居者本位の意向の検討に努めている。その中で毎日晩酌をたしなむ人、化粧やおしゃれを好む人等個別の支援が行われている。		
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知症高齢者ケアマネジメントセンター方式によりアセスメントを行い、ケアマネジャーや担当者、入居者家族が十分に話し合って、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	経過記録を基に毎月モニタリングして、6か月ごとに計画の見直しを行っている。状況の変化等介護計画の見直しが必要となった場合には、本人、家族、関係者と話し合って現状に即した介護計画となるよう見直しを行っている。		
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への診療支援や買物・行楽の外出支援等入居者の意向を汲んだ柔軟な対応が行われている。管理者はホームの機能を活かして地域の認知症高齢者の相談を受けたり、サポートセンターとしての機能を今後の取り組みとして計画している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関での受診を支援している。同法人の医療機関を受診している場合、在宅療養診療センターの訪問診療を受ける体制が整っており、より連携のとれた医療支援と入居者の通院負担が軽減されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアについては、法人内の医療機関や介護施設に移ることで対応してきたが、本人の境遇や意向によってはホームでも受け入れていくこととしており、職員に対して方針の共有と終末期ケアの勉強会を定期的に実施している。		入居者家族との話し合いにより、馴染みの環境の中でその人らしい最期を望まれる場合のために、今後、積極的な終末期の支援体制が築かれることを期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重		
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への言葉かけについては、職員相互に気を付けて、接遇委員会でも正していくように検討している。また、個人情報の取り扱いはマニュアルにより遵守されている。訪問調査当日、昼食中の職員の言葉かけやケアの様子からも年長者である入居者の誇りを尊重する姿勢がうかがえた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	野菜作りや散歩等、入居者の思い通りの過ごし方を支援し、その日の希望で買物に出かけるなど柔軟に支援している。昼食時、自家栽培の夏野菜がふんだんに使われたメニューを話題にして、楽しい雰囲気の中、入居者それぞれのペースで食事をとる様子がみられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で作った野菜を材料に入居者と職員と一緒に昼食の準備を行い、後片付けも食器洗い等と一緒にやっている。流しそうめんや食卓に手作りの氷柱を置いて季節を楽しむ工夫が暮らしの中に取り入れられている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各ユニット週2回の入浴であるが、ユニットごとで曜日を变えているため日曜日以外は毎日入浴ができるようになっており、入居者の都合や希望で他のユニットでの入浴も可能である。また、好みの入浴剤を使用したり、菖蒲湯や柚子湯で季節を楽しむ工夫も取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味に合わせて役割のある暮らしを支援している。具体的には、毎食の「お品書き」を筆で書くことや、毎日の日付を掲示すること、庭のお地藏さんの前掛けを縫うこと等の役割を担ってもらっている。訪問調査当日もお茶を出してくれる入居者の様子がみられた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の「行きたい時」を尊重して、本人の希望に副った買物や散歩の支援がなされている。散歩は日常的に行っており、神社や公園の草取り作業にも住民と一緒に参加している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットごとに玄関があり、時間帯を設けて開錠している。家族アンケートや運営推進会議で協議して、開放する時間帯や頻度を段階的に増やしていく方針で、入居者の行動観察や不穏な時に注意しながら見守りを行っている。		日中の鍵の開放は家族が安全性を不安視する声から一部制限されているが、事業所の継続した取り組みにより、家族の理解と安全な見守りがさらに進められることを期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防火訓練を実施し、避難場所への安全でスムーズな誘導を心がけている。また、地区の防災訓練に参加したり、運営推進会議で地域の協力体制についても話し合われている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により献立が立てられている。嚥下が困難な場合や体調を考慮して食事形態を変えて対応したり、その日の状況で落ち着いて食事ができるように食卓の場所を変えたりと柔軟に支援している。また、就寝前にもお茶の時間を設けて水分摂取に気を配っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットは廊下続きで自由に往来でき、要所に椅子が置かれている。平屋で天井も高く採光も良い、所々に落ち着いた書画や季節の花飾り等が置かれており、入居者にとって心が和む空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備品として木製のベッド、筆筒、椅子が用意されており、その他のテーブルやサイドボード等は好みの家具が持ち込まれている。ベランダに季節の鉢植えが並べられていたり、居室に飾ってある生け花を嬉しそうに見せてくれる入居者もあり、その人らしい居室空間づくりが支援されている。		

グループホーム けんたく(A棟)

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	理念に基づく運営 1 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人一人が地域の中でその人らしく暮らしていけるように独自の理念をつくり、毎朝唱和している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現に向けた取り組みが職員の共通の目標として常に意識され、ケアプランにも盛りこんでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	申込時や運営推進会議時などに説明を入れたり、フロア内では誰もがいつでも見られるように掲示してある。		
	2 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気軽な近所付き合いができています。近所の災害時には炊き出し等の協力をしたりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会の法話、自治会のどんど焼き、秋祭り、公民館祭り、高校の文化祭などに参加し、地元の方々との交流に努めている。		家族を通して幼稚園を紹介していただき、児童とのふれあいの場をもつて更に交流を深めて生きたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じて認知症についての理解を深めていただき、地域の相談窓口となれるよう努力している。		地域の認知症サポーターとしての役割を果たせるように今後も取り組んでいきたい。
	3 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	玄関開放への取り組み、夜間の入浴、地域への認知症に対する理解、家族を交えた行事の実施、家族とのカンファレンスの徹底等について職員全員でミーティングを行い改善に向けて取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活発な意見交換が行われており、話し合いにより出た意見を皆で話し合い、取り入れていくことでサービスの向上に努めている。		今後も活発な意見交換が出来る場となるように取り組んでいくと同時に色々な意見をサービスに反映させていきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員と運営推進会議以外の場においても情報交換を行なっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内の勉強会や外部研修により、知識を得ている。また必要性のある方は社会福祉協議会に相談したりしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等で虐待に関する理解を深め、身体拘束委員会を中心に虐待防止に取り組んでいる。		
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時や解約時には十分な説明を行い、理解していただけるようにしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や介護相談員の受け入れを行っている。意見や不満を受けたときには必ずカンファレンスを開き、話し合いの中で改善に取り組んでいる。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	6ヶ月に一度の定期的な家族とのカンファレンス以外でも面会に来られた時に本人の状態について報告したり、お小遣帳の確認をしていただいたりしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のなかで意見を伺ったり、苦情相談窓口や意見箱を設置し、意見や苦情を受けた時は早期にカンファレンスを開いて改善するようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定期ミーティングの場において各自の意見や提案を聞く機会を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	申し送りの時間を利用して職員配置、人数の調整を行なっている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動に関してはなるべく最小限となるように配慮するとともに、産休・育休による子育て支援により離職防止に努めている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受講する機会を設けると同時に参加した外部研修については伝達して皆で知識を共有するように努めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井市介護サービス事業者連絡会や県のグループホーム協会を通じて同業者との情報交換や勉強会の機会を設けている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年4回の親睦会行事を開催している。また食事会などの機会を設けてストレス軽減となるように配慮している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の報告での聞き取りや年2回の人事考課を実施している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	落ち着いて話のできる場所や環境をつくり、本人の希望や求めている事、不安などを聞き受けとめるようにしている。		本人からの訴えがなくても表情や行動から汲み取れるようなスキルを身に付けていきたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入所前には必ず本人とは別に話す機会を設けて家族の求めていることや不安な点について現状を知るようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の現状を把握し、ホーム職員だけでなく地域連携室にも連絡し、今後のサービス利用を総合的に判断している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には必ず説明をして見学をしていただき、しばらく職員と家族のもとでフロアーにて過ごしていただくようにしている。		場の雰囲気を判ってもらえるように希望者には昼食を一緒にしていただく等の工夫をしていきたい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として学ぶ立場を忘れずに本人の得意分野を活かしていけるように努めている。		一人一人が生きがいを持って生活していけるように更に工夫をしていきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事などの機会を利用し、家族とともに支えていけるように話し合いの場やふれあいの場を設けている。		共に支えていくことに消極的な家族に対しても更に働きかけが必要である。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係を把握し、入居することで関係が途切れないように面会に来ていただくように依頼するなどのアプローチに配慮している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近所の友人や馴染みの方が来ていただけた時にはゆっくりと過ごせる場を設けるようにしている。		馴染みの方やすごされてきた場所について把握するようにして面会に来ていただけるようにアプローチしていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い人との関係作りや孤立しないようにテーブルの配置や座る場所を考えたり、スタッフがなかに入るとよい関係作りを努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方のご家族に了解を得てボランティアとして以前から行っていた作業を手伝っていただいている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに合わせた暮らしづくりが行えるように努めている。困難な場合にはケースカンファレンスにて本人が何を望んでいるかを十分に考えて検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの話し合いによる情報収集とそれらの情報をセンター方式にて把握するようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送りの情報や連絡帳をもとに心身の状態や行動パターンなどを把握するようにしている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時にはある程度の計画を作成し、その後本人や家族との話し合いにより本人本位の計画となるように心がけて作成している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しを行い、変化に応じて本人、家族らと話し合いのうえ、計画を見直し、作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やプランに基づいた)ケアの内容を毎日、個別記録に記入し、申し送り情報で共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループ内に病院、診療所、老健施設、及び種々の介護事業所を有することからその時々要望に対して柔軟な対応を行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア、消防、教育機関等の協力を得ながら、行事や生活に活かしている。		地域包括支援センターと協力しながら更に地域資源の把握を行うとともに協力を進めていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向などに応じ、地域の他のケアマネージャーや事業所と相談し、他のサービスを利用していただく体制をとっているが、現在利用している方はいない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	グループ内に地域包括支援センターがあるため、相談等に応じてもらえ、協働しやすい環境にある。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を受け入れ、かかりつけ医による適切な医療を提供していただける関係を築いている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	グループ内に隣接して認知症の専門医療機関があり、診断、治療を受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日勤帯は看護師が勤務しており、夜勤帯には緊急連絡網によって健康管理や医療的対応を取っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期の入退院にむけて病院との情報交換を密に行っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>できるだけ早い段階において本人や家族やかかりつけ医らと今後の方針等について話し合っている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>終末期に対する指針はあるが、グループ内に医療機関もある為、今現在積極的な取り組みは行っていない。</p>		<p>終末期のケアに対して知識を深めるため定期的な勉強会を行なっている。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>移り住む先のスタッフとの情報交換や本人、家族との話し合いを充分に行い、ダメージやレベル低下を防ぐように努めている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけに対しては接遇委員会が中心となって取り組んでいる。個人情報に関してはマニュアルによる取り組みを行っている。</p>		<p>接遇に関しては取り組んではいるものの、今後更に向上していくために職員自身の意識向上に努めていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>本人のペースに合わせ、無理にこちらの意見を通さずに普段から注意深く観察し、馴染みの関係を築いている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>草むしりや刺し子など本人の意向を重視し、希望に沿った支援を行なっている。</p>		<p>ボランティアなどの協力を得ながら今以上に一人ひとりのペース、希望に沿った支援を行っていきたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望する理美容店に送迎をしている。また化粧などは家族の協力を得ながら希望する方には行えるように支援している。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>中庭で食事をする事で雰囲気を変えたり、畑で採れたものを料理したりしている。また時には外食による気分転換を図っている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>決められたおやつその他、本人の好むものが楽しめるよう、ホーム内での売店開催や買い物などへ出かけている。また飲み物も冷蔵庫の一部を提供し、楽しめるように支援している。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の排泄パターンに合わせておむつを選び、声かけや誘導をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴を実施し、本人の希望に合わせて入浴剤を使用したり、季節に合わせて菖蒲湯・ゆず湯などを行なっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ソファや畳の間、自室においてその方の生活習慣に合わせた休息がとれるように支援している。また本人持ちの枕や布団にこだわる方にはそれを使っていたり、不安なときにはスタッフと一緒に休んだりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴に合わせて買い物、散歩、草むしり、畑仕事、晩酌など楽しめることを支援している。		公民館や学校などにボランティアで草むしりに行くことを検討している。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の意見を聞きながらお金を所持していただき、買い物などに出かけている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ケアプラン以外にもその日の希望に応じて外出したい方には出かけるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	小旅行など、家族とともに出かけられるように計画や支援を行っているがスタッフとの個別的な外出は少ない。		本人の希望に対し、家族の協力を更に得ることによって今以上にかけられるように支援していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書などのやりとりが行えるように支援している。電話に関してはいつでも出来る状態であるが、電話機の操作に戸惑いを見ることがあり、その際にはスタッフが介助することもある。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居時に家族は勿論の事、馴染みの方についてもいつでも面会に来ていただくように説明とお願いをしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を行い、職員の意識を高め身体拘束委員のもと拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の理解や了解を得ながら開放に向けて取り組んでいる。		玄関の開放の時間や頻度を増やしていく努力を今後もしていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら昼夜を通して利用者の所在を把握するために見回りを行っている。特に情緒不安定などときには常に接しているように心がけている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫箱やハサミなど一人ひとりの状態に合わせて所持していただいたり、職員管理としたりしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止に関する教育の受講によりとりにくんでいる。また年2回の防火訓練により学んでいる。		転倒や誤薬など事故に関してはヒヤリハットの記録や事故報告書をもとに話し合うことで再発予防に努めている。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	教育委員会を通じて年1回救急対応の実技訓練を行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防火訓練を実施するとともに運営推進会議を通して地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒リスクについてチェックリストを作成し、家族と定期的に話し合っている。ベッド柵など本人が抑圧感を感じない程度を話し合い、実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化について発見後すぐに病院受診の手配を行うようにしている。また申し送りや連絡帳を利用してスタッフ間での情報の共有を図っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的等が記載された処方箋をカルテの裏に綴じている。また特別な薬については連絡帳や申し送りにて伝達、注意を図っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便状態を確認して十分な水分補給と運動に取り組んでいる。更に排便困難な方には薬を使用している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの励行を支援している。ご自身で充分に行えない方には見守り及び介助を行なっている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によってバランスに配慮した食事メニューが作られている。体調不良や嚥下困難者にはお粥に変更したり、摂取しやすいようにしている。また水分量や食事をチェックしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種や対応マニュアルを備え付けている。また感染に関する教育も受講している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は使用后、殺菌庫にて管理している。生鮮食料品については毎日、新鮮なものを購入している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい看板や花などを植えるなどの工夫をしている。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花を飾ったり月ごとに壁飾りを変えて季節感を出している。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にベンチやソファを配置したり、冬にはコタツを用意して思い思いに過ごせるようにしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた鏡や筆筒や仏壇など本人や家族と相談しながら環境に配慮している。		家人にも協力をお願いしているが、お部屋が寂しい場合もあるため、より家族との話し合いを深めて環境づくりに支援していただけるようにアプローチしていきたい。
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房など、こまめに温度調整につとめている。また換気は1日2回のほか、悪臭にも気をつけている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で手すり、ナースコール、入居者に合わせたトイレや手洗いの高さに配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の自分で出来ることは行っていただき、出来ないことはさりげなくお手伝いをするようにしている。失敗や混乱を防ぐためにもゆっくりと優しく接している。		失敗や混乱を防ぐためにもゆっくりと優しく接していくように努めている。
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭で食事をしたり、畑での野菜作りや花壇、ガーデニングを行っている。		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりの思いを大切に、家族を含めた話し合いの時間を充分とるようにしています。日中は看護師が常に配置されており、夜間は緊急連絡網により近隣の介護老人保健施設や訪問看護の看護師が駆けつけることとなっています。またグループ内に病院や精神科クリニックもあるため、医療の面では安心いただける体制となっております。ボランティアの受け入れを積極的に行ったり、地域の活動に積極的に参加することで地域の中での関係作りを行なっています。ホーム内では畑や庭などに花や野菜を植えることなどで自然に触れる機会を多く設け、自分で植えた花や育てた野菜を収穫することで楽しみを持って生活していただけるよう取り組んでいます。

グループホーム けんたく(B棟)

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	理念に基づく運営 1 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人一人が地域の中でその人らしく暮らしていけるように独自の理念をつくり、毎朝唱和している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現に向けた取り組みが職員の共通の目標として常に意識され、ケアプランにも盛りこんでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	申込時や運営推進会議時などに説明を入れたり、フロア内では誰もがいつでも見られるように掲示してある。		
	2 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの行事などを利用して気軽に参加していただいたり、ホームで採れた野菜を近所にお裾分けしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会の法話、自治会のどんど焼き、秋祭り、公民館祭り、高校の文化祭などに参加し、地元の方々との交流に努めている。		家族を通して幼稚園を紹介していただき、児童とのふれあいの場をもつて更に交流を深めて生きたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じて認知症についての理解を深めいただき、地域の相談窓口となれるよう努力している。		地域の認知症サポーターとしての役割を果たせるように今後も取り組んでいきたい。
	3 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	玄関開放への取り組み、夜間の入浴、地域への認知症に対する理解、家族を交えた行事の実施、家族とのカンファレンスの徹底等について職員全員でミーティングを行い改善に向けて取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活発な意見交換が行われており、話し合いにより出た意見を皆で話し合い、取り入れていくことでサービスの向上に努めている。		今後も活発な意見交換が出来る場となるように取り組んでいくと同時に色々な意見をサービスに反映させていきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員と運営推進会議以外の場においても情報交換を行なっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の方で現在1人、権利擁護事業を活用している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等で虐待に関する理解を深め、身体拘束委員会を中心に虐待防止に取り組んでいる。		
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時や解約時には十分な説明を行い、理解していただけるようにしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や介護相談員の受け入れを行っている。意見や不満を受けたときには必ずカンファレンスを開き、話し合いの中で改善に取り組んでいる。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	6ヶ月に一度の定期的な家族とのカンファレンス以外でも面会に来られた時に本人の状態について報告したり、お小遣帳の確認をしていただいたりしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のなかで意見を伺ったり、苦情相談窓口や意見箱を設置し、意見や苦情を受けた時は早期にカンファレンスを開いて改善するようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定期ミーティングの場において各自の意見や提案を聞く機会を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	申し送りの時間を利用して職員配置、人数の調整を行なっている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動に関してはなるべく最小限となるように配慮するとともに、産休・育休による子育て支援により離職防止に努めている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受講する機会を設けると同時に参加した外部研修については伝達して皆で知識を共有するように努めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井市介護サービス事業者連絡会や県のグループホーム協会を通じて同業者との情報交換や勉強会の機会を設けている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年4回の親睦会行事を開催している。また食事会などの機会を設けてストレス軽減となるように配慮している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の報告での聞き取りや年2回の人事考課を実施している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	落ち着いて話のできる場所や環境をつくり、本人の希望や求めている事、不安などを聞き受けとめるようにしている。		本人からの訴えがなくても表情や行動から汲み取れるようなスキルを身に付けていきたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入所前には必ず本人とは別に話す機会を設けて家族の求めていることや不安な点について現状を知るようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の現状を把握し、ホーム職員だけでなく地域連携室にも連絡し、今後のサービス利用を総合的に判断している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には必ず説明をして見学をしていただき、しばらく職員と家族のもとでフロアーにて過ごしていただくようにしている。		場の雰囲気を判ってもらえるように希望者には昼食を一緒にしていただく等の工夫をしていきたい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として学ぶ立場を忘れずに本人の得意分野を活かしていけるように努めている。		一人一人が生きがいを持って生活していけるように更に工夫をしていきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事などの機会を利用し、家族とともに支えていけるように話し合いの場やふれあいの場を設けている。		共に支えていくことに消極的な家族に対しても更に働きかけが必要である。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係を把握し、入居することで関係が途切れないように面会に来ていただくように依頼するなどのアプローチに配慮している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時に友人関係や馴染みの場所を家族に聞き、出来るだけそれまでの人間関係等を継続できるように支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う人同士が同じ作業に取り組むように声かけしている。直接、職員が声かけすることもあるが、利用者を通しての関わりをもてるように努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設で会う機会を通じて、情報交換を行なっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望により晩酌をしているケースもあり、一人ひとりの思いに合わせた暮らし方が行えるように努めている。困難な場合にはケースカンファレンスにて本人が何を望んでいるかを十分に考えて検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの話し合いによる情報収集とそれらの情報をセンター方式にて把握するようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送りの情報や連絡帳をもとに心身の状態や行動パターンなどを把握するようにしている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時にはある程度の計画を作成し、その後本人や家族との話し合いにより本人本位の計画となるように心がけて作成している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しを行い、変化に応じて本人、家族らと話し合いのうえ、計画を見直し、作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やプランに基づいた)ケアの内容を毎日、個別記録に記入し、申し送り情報で共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループ内に病院、診療所、老健施設、及び種々の介護事業所を有することからその時々要望に対して柔軟な対応を行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア、消防、教育機関等の協力を得ながら、行事や生活に活かしている。		地域包括支援センターと協力しながら更に地域資源の把握を行うとともに協力を進めていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	グループ内に地域包括支援センターがあるため、相談等に応じてもらえ、協働しやすい環境にある。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を受け入れ、かかりつけ医による適切な医療を提供していただける関係を築いている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	グループ内に隣接して認知症の専門医療機関があり、診断、治療を受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日勤帯は看護師が勤務しており、夜勤帯には緊急連絡網によって健康管理や医療的対応を取っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期の入退院にむけて病院との情報交換を密に行っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>できるだけ早い段階において本人や家族やかかりつけ医らと今後の方針等について話し合っている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>終末期に対する指針はあるが、グループ内に医療機関もある為、今現在積極的な取り組みは行っていない。</p>		<p>終末期のケアに対して知識を深めるため定期的な勉強会を行なっている。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>移り住む先のスタッフとの情報交換や本人、家族との話し合いを充分に行い、ダメージやレベル低下を防ぐように努めている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけに対しては接遇委員会が中心となって取り組んでいる。個人情報に関してはマニュアルによる取り組みを行っている。</p>		<p>接遇に関しては取り組んではいるものの、今後更に向上していくために職員自身の意識向上に努めていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>本人のペースに合わせ、無理にこちらの意見を通さずに普段から注意深く観察し、馴染みの関係を築いている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>草むしりや刺し子など本人の意向を重視し、希望に沿った支援を行なっている。</p>		<p>ボランティアなどの協力を得ながら今以上に一人ひとりのペース、希望に沿った支援を行っていきたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望する理美容店に送迎をしている。また化粧などは家族の協力を得ながら希望する方には行えるように支援している。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>中庭で食事をする事で雰囲気を変えたり、畑で採れたものを料理したりしている。また時には外食による気分転換を図っている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人がお酒を望まれる場合、家族にも協力をいただきながら支援したり、なるべく本人が望まれる嗜好を取り入れるように努力している。</p>		<p>嫌いな食べ物の場合には代替りのものを用意している。</p>

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の排泄パターンに合わせておむつを選び、声かけや誘導をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴を実施し、本人の希望に合わせて入浴剤を使用したり、季節に合わせて菖蒲湯・ゆず湯などを行なっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ソファや畳の間、自室においてその方の生活習慣に合わせた休息がとれるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴に合わせて買い物、散歩、草むしり、畑仕事、晩酌など楽しめることを支援している。		本人の行きたい場所や食べたい物を聞きながら、個別的なかかわりをより一層深めていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の意見を聞きながらお金を所持していただき、買い物などに出かけている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ケアプラン以外にもその日の希望に応じて外出したい方には出かけるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	小旅行など、家族とともに出かけられるように計画や支援を行っているがスタッフとの個別的な外出は少ない。誕生月には本人の行きたい場所へ職員と共に出かけている。		本人の希望に対し、家族の協力を更に得ることによって今以上にかけられるように支援していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書などのやりとりが行えるように支援している。電話に関してはいつでも出来る状態であるが、電話機の操作に戸惑いを見ることがあり、その際にはスタッフが介助することもある。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居時に家族は勿論の事、馴染みの方についてもいつでも面会に来ていただくように説明とお願いをしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を行い、職員の意識を高め身体拘束委員のもと拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の理解や了解を得ながら開放に向けて取り組んでいる。		玄関の開放の時間や頻度を増やしていく努力を今後もしていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら昼夜を通して利用者の所在を把握するために見回りを行っている。特に情緒不安定などときには常に接しているように心がけている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫箱やハサミなど一人ひとりの状態に合わせて所持していただいたり、職員管理としたりしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止に関する教育の受講によりとりにくんでいる。また年2回の防火訓練により学んでいる。		転倒や誤薬など事故に関してはヒヤリハットの記録や事故報告書をもとに話し合うことで再発予防に努めている。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	教育委員会を通じて年1回救急対応の実技訓練を行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防火訓練を実施するとともに運営推進会議を通して地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒リスクについてチェックリストを作成し、家族と定期的に話し合っている。ベッド柵など本人が抑圧感を感じない程度を話し合い、実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化について発見後すぐに病院受診の手配を行うようにしている。また申し送りや連絡帳を利用してスタッフ間での情報の共有を図っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的等が記載された処方箋をカルテの裏に綴じている。また特別な薬については連絡帳や申し送りにて伝達、注意を図っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便状態を確認して十分な水分補給と運動に取り組んでいる。更に排便困難な方には薬を使用している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの励行を支援している。ご自身で充分に行えない方には見守り及び介助を行なっている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によってバランスに配慮した食事メニューが作られている。体調不良や嚥下困難者にはお粥に変更したり、摂取しやすいようにしている。また水分量や食事をチェックしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種や対応マニュアルを備え付けている。また感染に関する教育も受講している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は使用后、殺菌庫にて管理している。生鮮食料品については毎日、新鮮なものを購入している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい看板や花などを植えるなどの工夫をしている。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花を飾ったり月ごとに壁飾りを変えて季節感を出している。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にベンチやソファを配置したり、冬にはコタツを用意して思い思いに過ごせるようにしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた鏡や筆筒や仏壇など本人や家族と相談しながら環境に配慮している。		家人にも協力をお願いしているが、お部屋が寂しい場合もあるため、より家族との話し合いを深めて環境づくりに支援していただけるようにアプローチしていきたい。
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房など、こまめに温度調整につとめている。また換気は1日2回のほか、悪臭にも気をつけている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で手すり、ナースコール、入居者に合わせたトイレや手洗いの高さに配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の自分で出来ることは行っていただき、出来ないことはさりげなくお手伝いをするようにしている。失敗や混乱を防ぐためにもゆっくりと優しく接している。		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭で食事をしたり、畑での野菜作りや花壇、ガーデニングを行っている。		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりの思いを大切に、家族を含めた話し合いの時間を充分とるようにしています。日中は看護師が常に配置されており、夜間は緊急連絡網により近隣の介護老人保健施設や訪問看護の看護師が駆けつけることとなっています。またグループ内に病院や精神科クリニックもあるため、医療の面では安心いただける体制となっております。ボランティアの受け入れを積極的に行ったり、地域の活動に積極的に参加することで地域の中での関係作りを行なっています。ホーム内では畑や庭などに花や野菜を植えることなどで自然に触れる機会を多く設け、自分で植えた花や育てた野菜を収穫することで楽しみを持って生活していただけるよう取り組んでいます。

グループホーム けんたく(C棟)

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	理念に基づく運営 1 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人一人が地域の中でその人らしく暮らしていけるように独自の理念をつくり、毎朝唱和している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現に向けた取り組みが職員の共通の目標として常に意識され、ケアプランにも盛りこんでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	申込時や運営推進会議時などに説明を入れたり、フロア内では誰もがいつでも見られるように掲示してある。		
	2 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの行事などを利用して気軽に参加していただいたり、ホームで採れた野菜を近所にお裾分けしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会の法話、自治会のどんど焼き、秋祭り、公民館祭り、高校の文化祭などに参加し、地元の方々との交流に努めている。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に在住の認知症の方に遊びに来ていただいたり、食事を一緒に食べていただいたりしている。		
	3 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	玄関開放への取り組み、夜間の入浴、地域への認知症に対する理解、家族を交えた行事の実施、家族とのカンファレンスの徹底等について職員全員でミーティングを行い改善に向けて取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活発な意見交換が行われており、話し合いにより出た意見を皆で話し合い、取り入れていくことでサービスの向上に努めている。		今後も活発な意見交換が出来る場となるように取り組んでいくと同時に色々な意見をサービスに反映させていきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員と運営推進会議以外の場においても情報交換を行なっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業を活用している方が1名いる。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等で虐待に関する理解を深め、身体拘束委員会を中心に虐待防止に取り組んでいる。		
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時や解約時には十分な説明を行い、理解していただけるようにしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や介護相談員の受け入れを行っている。意見や不満を受けたときには必ずカンファレンスを開き、話し合いの中で改善に取り組んでいる。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	6ヶ月に一度の定期的な家族とのカンファレンス以外でも面会に来られた時に本人の状態について報告したり、お小遣帳の確認をしていただいたりしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のなかで意見を伺ったり、苦情相談窓口や意見箱を設置し、意見や苦情を受けた時は早期にカンファレンスを開いて改善するようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定期ミーティングの場において各自の意見や提案を聞く機会を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	申し送りの時間を利用して職員配置、人数の調整を行なっている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動に関してはなるべく最小限となるように配慮するとともに、産休・育休による子育て支援により離職防止に努めている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受講する機会を設けると同時に参加した外部研修については伝達して皆で知識を共有するように努めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井市介護サービス事業者連絡会や県のグループホーム協会を通じて同業者との情報交換や勉強会の機会を設けている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年4回の親睦会行事を開催している。また食事会などの機会を設けてストレス軽減となるように配慮している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の報告での聞き取りや年2回の人事考課を実施している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	落ち着いて話のできる場所や環境をつくり、本人の希望や求めている事、不安などを聞き受けとめるようにしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入所前には必ず本人とは別に話す機会を設けて家族の求めていることや不安な点について現状を知るようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の現状を把握し、ホーム職員だけでなく地域連携室にも連絡し、今後のサービス利用を総合的に判断している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居生活にあたって不安な想いがある方に一週間の体験入居生活を送っていただいたことがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として学ぶ立場を忘れずに本人の得意分野を活かしていけるように努めている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事などの機会を利用し、家族とともに支えていけるように話し合いの場やふれあいの場を設けている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係を把握し、入居することで関係が途切れないように面会に来ていただくように依頼するなどのアプローチに配慮している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室や近所の人達との交流を今も続けて支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	フロアのテーブル席の場所に気を配ったり、洗い物のメンバーの組み合わせを考えて孤立しないようにしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	時々、電話をしたり、ボランティア活動に週1回くらい来て頂くことで退去後も関わり合いを継続するようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望により晩酌をしているケースもあり、一人ひとりの思いに合わせた暮らし方が行えるように努めている。困難な場合にはケースカンファレンスにて本人が何を望んでいるかを十分に考えて検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの話し合いによる情報収集とそれらの情報をセンター方式にて把握するようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送りの情報や連絡帳をもとに心身の状態や行動パターンなどを把握するようにしている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時にはある程度の計画を作成し、その後本人や家族との話し合いにより本人本位の計画となるように心がけて作成している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しを行い、変化に応じて本人、家族らと話し合いのうえ、計画を見直し、作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やプランに基づいた)ケアの内容を毎日、個別記録に記入し、申し送り情報で共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループ内に病院、診療所、老健施設、及び種々の介護事業所を有することからその時々々の要望に対して柔軟な対応を行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア、消防、教育機関等の協力を得ながら、行事や生活に活かしている。		地域包括支援センターと協力しながら更に地域資源の把握を行うとともに協力を進めていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向などに応じ、地域の他のケアマネージャーや事業所と相談し、他のサービスを利用していただく体制をとっているが、現在利用している方はいない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	グループ内に地域包括支援センターがあるため、相談等に応じてもらえ、協働しやすい環境にある。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を受け入れ、かかりつけ医による適切な医療を提供していただける関係を築いている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	グループ内に隣接して認知症の専門医療機関があり、診断、治療を受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日勤帯は看護師が勤務しており、夜勤帯には緊急連絡網によって健康管理や医療的対応を取っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期の入退院にむけて病院との情報交換を密に行っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>できるだけ早い段階において本人や家族やかかりつけ医らと今後の方針等について話し合っている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>終末期に対する指針はあるが、グループ内に医療機関もある為、今現在積極的な取り組みは行っていない。</p>		<p>終末期のケアに対して知識を深めるため定期的な勉強会を行なっている。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>移り住む先のスタッフとの情報交換や本人、家族との話し合いを充分に行い、ダメージやレベル低下を防ぐように努めている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけに対しては接遇委員会が中心となって取り組んでいる。個人情報に関してはマニュアルによる取り組みを行っている。</p>		<p>接遇に関しては取り組んではいるものの、今後更に向上していくために職員自身の意識向上に努めていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>本人のペースに合わせ、無理にこちらの意見を通さずに普段から注意深く観察し、馴染みの関係を築いている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の希望、要望に合わせて買い物に出かけたりベランダで好きな花が育てられるように支援している。</p>		<p>ボランティアなどの協力を得ながら今以上に一人ひとりのペース、希望に沿った支援を行っていきたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望する理美容店に送迎をしている。また化粧などは家族の協力を得ながら希望する方には行えるように支援している。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>中庭で食事をする事で雰囲気を変えたり、畑で採れたものを料理したりしている。また時には外食による気分転換を図っている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつ、飲み物、お酒等、本人の嗜好にあわせた支援を行っている。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の排泄パターンに合わせておむつを選び、声かけや誘導をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴を実施し、本人の希望に合わせて入浴剤を使用したり、季節に合わせて菖蒲湯・ゆず湯などを行なっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ソファや畳の間、自室においてその方の生活習慣に合わせた休息がとれるように支援している。また本人持ちの枕や布団にこだわる方にはそれを使っていたり、不安なときにはスタッフと一緒に休んだりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴に合わせて買い物、散歩、草むしり、畑仕事、晩酌など楽しめることを支援している。		自己主張の少ない方への楽しみについて理解を深めていき、支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の意見を聞きながらお金を所持していただき、買い物などに出かけている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ケアプラン以外にもその日の希望に応じて外出したい方には出かけるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	小旅行など、家族とともに出かけられるように計画や支援を行っているがスタッフとの個別的な外出は少ない。		本人の希望に対し、家族の協力を更に得ることによって今以上にかけられるように支援していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書などのやりとりが行えるように支援している。電話に関してはいつでも出来る状態であるが、電話機の操作に戸惑いを見ることがあり、その際にはスタッフが介助することもある。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居時に家族は勿論の事、馴染みの方についてもいつでも面会に来ていただくように説明とお願いをしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を行い、職員の意識を高め身体拘束委員のもと拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の理解や了解を得ながら開放に向けて取り組んでいる。		玄関の開放の時間や頻度を増やしていく努力を今後もしていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら昼夜を通して利用者の所在を把握するために見回りを行っている。特に情緒不安定などときには常に接しているように心がけている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫箱やハサミなど一人ひとりの状態に合わせて所持していただいたり、職員管理としたりしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止に関する教育の受講によりとりにくんでいる。また年2回の防火訓練により学んでいる。		転倒や誤薬など事故に関してはヒヤリハットの記録や事故報告書をもとに話し合うことで再発予防に努めている。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	教育委員会を通じて年1回救急対応の実技訓練を行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防火訓練を実施するとともに運営推進会議を通して地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒リスクについてチェックリストを作成し、家族と定期的に話し合っている。ベッド柵など本人が抑圧感を感じない程度を話し合い、実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化について発見後すぐに病院受診の手配を行うようにしている。また申し送りや連絡帳を利用してスタッフ間での情報の共有を図っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的等が記載された処方箋をカルテの裏に綴じている。また特別な薬については連絡帳や申し送りにて伝達、注意を図っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便状態を確認して十分な水分補給と運動に取り組んでいる。更に排便困難な方には薬を使用している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの励行を支援している。ご自身で充分に行えない方には見守り及び介助を行なっている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によってバランスに配慮した食事メニューが作られている。体調不良や嚥下困難者にはお粥に変更したり、摂取しやすいようにしている。また水分量や食事をチェックしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種や対応マニュアルを備え付けている。また感染に関する教育も受講している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は使用后、殺菌庫にて管理している。生鮮食料品については毎日、新鮮なものを購入している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい看板や花などを植えるなどの工夫をしている。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花を飾ったり月ごとに壁飾りを変えて季節感を出している。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にベンチやソファを配置したり、冬にはコタツを用意して思い思いに過ごせるようにしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた鏡や筆筒や仏壇など本人や家族と相談しながら環境に配慮している。		家人にも協力をお願いしているが、お部屋が寂しい場合もあるため、より家族との話し合いを深めて環境づくりに支援していただけるようにアプローチしていきたい。
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房など、こまめに温度調整につとめている。また換気は1日2回のほか、悪臭にも気をつけている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で手すり、ナースコール、入居者に合わせたトイレや手洗いの高さに配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の自分で出来ることは行っていただき、出来ないことはさりげなくお手伝いをするようにしている。失敗や混乱を防ぐためにもゆっくりと優しく接している。		失敗や混乱を防ぐためにもゆっくりと優しく接していくように努めている。
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭で食事をしたり、畑での野菜作りや花壇、ガーデニングを行っている。		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりの思いを大切に、家族を含めた話し合いの時間を充分とるようにしています。日中は看護師が常に配置されており、夜間は緊急連絡網により近隣の介護老人保健施設や訪問看護の看護師が駆けつけることとなっています。またグループ内に病院や精神科クリニックもあるため、医療の面では安心いただける体制となっております。ボランティアの受け入れを積極的に行ったり、地域の活動に積極的に参加することで地域の中での関係作りを行なっています。ホーム内では畑や庭などに花や野菜を植えることなどで自然に触れる機会を多く設け、自分で植えた花や育てた野菜を収穫することで楽しみを持って生活していただけるよう取り組んでいます。